

[交通遮断機]・[道路情報板]の操作訓練を行いました!

久々野町無数河での通行止め訓練

5月21日に大雨時の事前通行規制を想定した通行止め訓練を行いました。
[事前通行規制]はご存じでしょうか？
 基準を超える大雨が降った場合、
 道路の決壊や土砂崩れなどの恐れが高まります。
 そのため、災害発生前に通行止めを行うことで被害を未然に防ぐこと、
 これが**[事前通行規制]**です。
 道路利用者・地域の皆様にはご不便をおかけいたしますがご理解とご協力を
 よろしくお願いいたします。



飛騨三協防災対策協議会との共同訓練



遮断機に標識を取り付ける様子



遮断機を下ろす訓練の様子

交通遮断機とは？



遮断機の操作説明を受ける様子

交通遮断機は道路上にあり、これにより車両を止めることで通行止めを行い、安全を確保します。
 お急ぎのところ申し訳ありませんが、
遮断機が下りる際は、無理な通行はご遠慮下さい。

道路情報板とは？

道路利用者の皆様に道路情報をお伝えします。
情報板の情報にもご注意ください。



道路情報板の操作訓練の様子

道路情報板の例

41
 9Km先工事中片側通行
 11Km先工事中片側通行

道路の異状を見つけたら
 道路緊急ダイヤル
 #9910へ

～みなさんのお役に立ちました？～ 岐南工業高校3年生 トンネル工事見学会

5月23日（水）岐阜県立岐南工業高等学校の3年生（約40名）の皆様を、国道41号宮峠のトンネル工事現場に招いて工事見学会を実施しました。

① トンネル内で座学を実施



工事で作ったコンクリート面をスクリーンにして、工事の流れなどを説明しました

② 各作業箇所へ移動して工事内容を説明



トンネルの先端部分で掘削作業を説明



コンクリートの作業について説明

トンネル工事はその工事方法や作業機械が独特で特殊な工事になります。
短い時間で全てを理解してもらうのは難しいですが、本日のことが何かしら高校生の皆様の心の片隅に、少しでも良い記憶として残っていてくれたら、おじさん達としては嬉しいです。

<参考> 宮峠トンネル事業については下記URLをご参照願います。

高山国道事務所HP <http://www.cbr.mlit.go.jp/takayama/gaiyou/miyatouge.html>

～ 国道の横でなにやってんの？～ 常泉寺川に橋を架けてます

宮峠トンネル事業の一環になりますが、現在、国道41号の高山市一之宮町にて常泉寺川に新しい橋を架ける工事を行っています。

5月下旬に橋のメインとなる重たい部材を、大きなクレーンを使って2日間かけて設置しました。



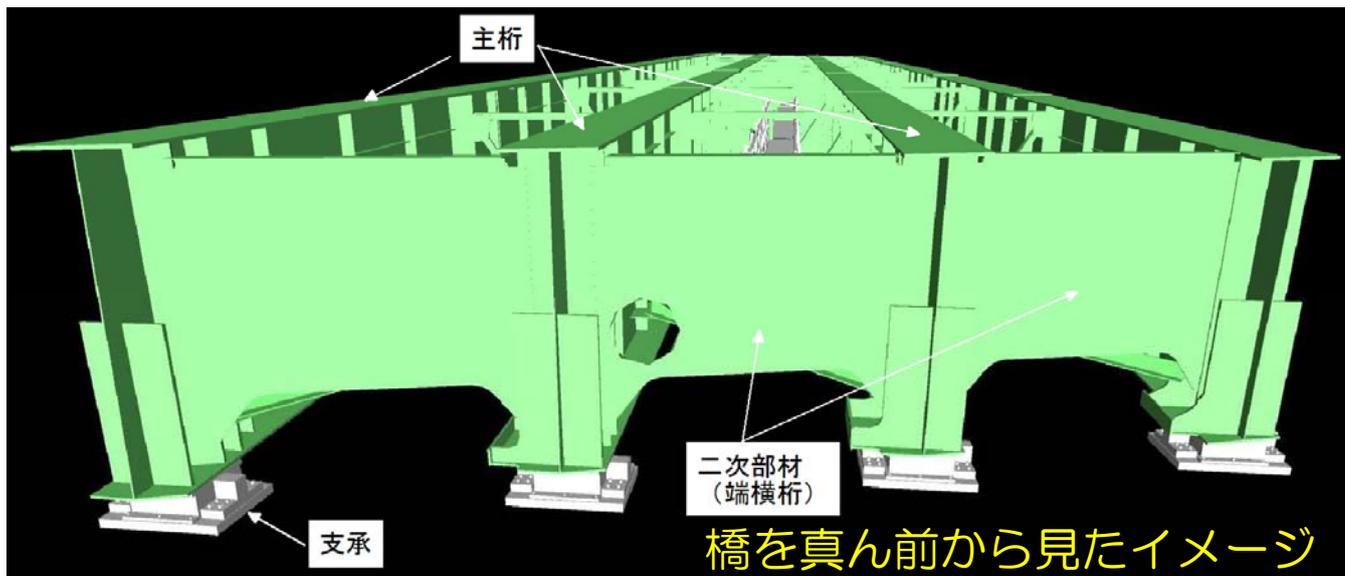
設置作業の状況



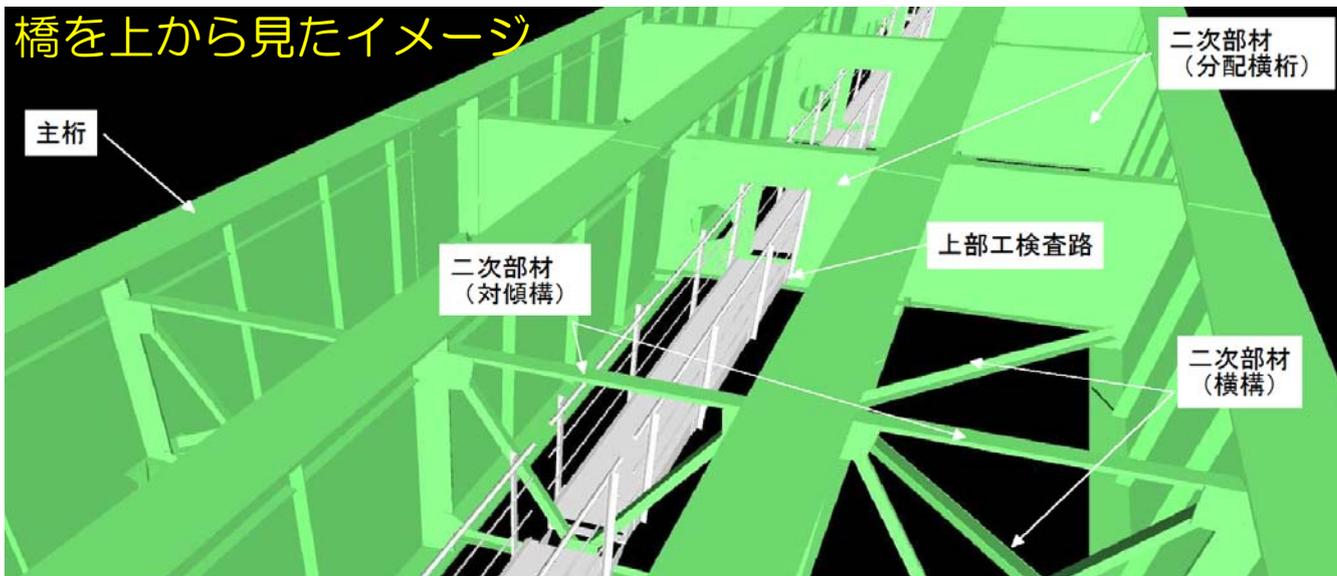
- ・ 今回の作業で吊り上げた部材で一番重いものは約25トンありました
- ・ 好条件なら250トンまで吊り上げ出来るクレーンを準備しました
- ・ 大きなクレーンだったので、分解して工事現場へ運んできました

新しい橋ってどんな橋？

- ・鉄がメイン : 鉄の重さは全部で160トンあります
- ・長さ47.5m : 常泉寺川を斜めにまたいでいます
- ・車2台が通れる橋になります



橋を上から見たイメージ



支承

- ・橋を支える役割

二次部材

- ・主桁を支える役割

上部工検査路

- ・橋の点検に使用します



※参考写真

現在は細かい部材を設置したり、強いボルトで頑丈に締め付けて塗装する工事を行っています。
9月頃からは、鉄の上を車が通れる様にコンクリートで通路を作る工事を行う予定です。
地域の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願ひします。

<参考> 宮峠トンネル事業については下記URLをご参照願ひします。

高山国道事務所HP <http://www.cbr.mlit.go.jp/takayama/gaiyou/miyatouge.html>

第5回目の今回も2人にインタビューしました。まずは、下呂温泉観光協会の瀧会長です。

「まだ十分使い切れていない観光の力を生かし、地域の生活の質向上を！」

- ここ数年の取り組みが実を結び、下呂はしっかりと宿泊客を伸ばしてきている。今後年間110万人の宿泊客を目標としており、それを維持しつつ、更に来訪者の滞在時間を延ばしていくことを指向している。
- 滞在時間の長い諸外国の観光先進地では、一つの観光地でも海や山や農業などが連携し、体験型等の観光の選択肢が多様に準備されているが、下呂はまだ温泉と食事のみにとどまっており、温泉以外の観光資源の開発、仕掛けも必要である。その際、そこへアクセスできる二次交通が重要となる。その取り組みとして電動自転車を駅に試験的に導入したが、意外にも外国人を含め多くの方に利用いただいております、さらに台数を増やす予定。自転車に限らず、バスやタクシーなど公共交通も重要と考えている。
- また下呂市域のみならず、岐阜県には中津川や郡上、恵那、関の刃物、美濃和紙など多様な資源が存在しており、他の地域の観光資源についても併せて観光代理店などに売り込んでいる。岐阜県全体の来訪者増加も必要であるし、他の地域と連携することで、さらに多様な、季節に応じた選択肢を提供することが可能となる。これにより、お客様のニーズに応じたオーダーメイドの旅行商品が提供でき、ひいては岐阜県全体での滞在時間を延ばすことができる。
- こういった多様な選択肢から選択するのはお客さんであり、その際の交通手段は選択に対しての重要な要素。110万人の宿泊目標の中で、交通手段別としては自家用車で70万人強、JRで20万人、バスで20万人強の来訪を想定している。団体旅行が多かった時代と比較してバスやJRは減少しているが、自家用車は減少していない。自家用車を維持しながら、バスでの来客を今よりももう少し増やしたい。
- バスでの来訪を増やすにあたり、高速道路のICから降りて目的地まで1時間以上要するバス旅行の商品化に旅行代理店は抵抗を感じるようだ。ICから40分程度が売れる商品の感覚のようである。下呂はどこのICからも1時間以上要する。下呂へのアクセスがより良くなってほしい部分もあるが、ICから下呂までの道中に、魅力的な立ち寄り地を設けて、この抵抗感をなくしていくことも重要。その視点では、先ほどの岐阜県他の地域との連携と併せて、移動ルートである国道41号自体も、沿道の風景やアクティビティの提供等立ち寄り地として有望だと思っている。
- このように、来訪者の滞在日数を伸ばしていく取り組みは、その延長線上に観光を軸として「住みたい」地域にしていく、移住、定住を促進していくことも視野に入ってくる。そのためには、地域の魅力向上、活力向上、つまり「生活の質」が向上していくことが重要。下呂地域にとって、観光の振興は「目的」ではなく、下呂の「生活の質」をよくしていくための「手段」と考えている。これらの想いを胸に、観光協会として地域の中高生にむけて観光の授業を提供している。
- 下呂、そして岐阜の資源は多様で豊かであり、まだまだこれらの力を十分に出し切っていない、十分に使い切っていないと思っている。下呂の生活の質向上に向け、まだまだ観光がやることはたくさんあると思っており、使い切れていない資源を精一杯活かしていく取り組みを今後も進めていきたいと考えている。



下呂温泉観光協会
瀧会長

岐阜県内で唯一、エコツーリズム推進法の認定を受けました。ぜひ、下呂市へ足をお運び下さい！

◆下呂市エコツーリズム推進協議会◆



<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/certification/gero/index.html>

続いて、奥飛騨温泉郷観光協会の小瀬会長です。

「奥飛騨の地の良さを活かし、守りながら次の時代への取り組みが必要」

- ・近年、流行やトレンドの変化が早くなってきている。観光も世の中の流行に合わせていくことも必要であるが、それにより他の地域と同じようなものとなつては意味が無い。昔からの「この地の良さ」を活かしていくことが必要。
- ・その地域の良さを活かすにあたり、担い手が減ってきていることが大きな課題である。出身者でも一度出るとコミュニティーに戻りにくく、またよそ者を受け入れることに抵抗があった時代もあった。今、そしてこれからは、しっかりと受け入れていくスタンスが必要。この地に移りたいと思つてもらうには他の地域にはない価値が必要であり、その点でも、「この地の良さ」をしっかりと魅せていくことが重要である。
- ・また、当地への来客について、団体客が多かった時代は、平日と休日の差が比較的小さかったが、個人客が多くなる中で平日が非常に厳しい。平日の落ち込みをなくすためにも、海外からの来客を増やすことは重要だと考えている。しかし、流行同様、海外からの来客を追い求める中で、この地の良さと考えている日本らしさが失われては本末転倒であり、今ある良さが確保できる範囲をよく見定める必要がある。
- ・更に、国内についても、現在は比較的年配の方が多いため、より年齢層を広げていくことが重要。その点では、飛騨地域の道路ネットワークが充実してきたことにより、深夜、早朝の出発でなくとも奥飛騨に来て頂ける環境ができ、また急な用事等で戻る必要がある際にも対応できるようになってきた。これにより、小さなお子様連れや仕事の制約が大きい方等にも来て頂きやすくなってきており助かっている。
- ・道路ネットワークは重要であるが、現在奥飛騨で生活するにあたり通院、通学、買い物等に必要最低限のレベルは確保されており、流行や訪日外国人の来客を追い求める場合と同様に、便利になることを追い求め過ぎて、この地の良さである自然の風景、人工構造物が少ない環境を壊しては意味が無い。
- ・無くしてはいけないもの、大事にしなければならないものを見据えながら、この地の将来に向けて取り組んでいくことが重要だと考えている。



奥飛騨温泉郷観光協会
小瀬会長

北アルプスの大自然に囲まれた天然温泉や大小さまざまな露天風呂、足湯に癒しを求めに来ませんか？



奥飛騨温泉郷
okuhida onsen

ホームページアドレス → <https://www.okuhida.or.jp/>

飛騨高山高校の2年生生徒によるチョウ類の生息調査 ～ビオトープ“飛騨の森再生”において環境学習を行いました～

飛騨高山高校環境科学科2年生6名が平成30年6月11日(月)に、高山西インターチェンジ内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”において、今年度2回目の環境学習を行いました。ビオトープでは、初夏に見られるチョウ類の捕獲・識別実習を行いました。

チョウの仲間は昆虫の中でも生態や生息環境が比較的よくわかっており、調査の際にも見つけやすく、その場で種名を調べることができる生物です。こうした性質からチョウの仲間は環境の状況を確認する指標として使われることがあります。今回の学習では、確認できたチョウを用いて現在のビオトープがチョウ類にとってどのような環境であるかを確認しました。



【チョウ類の採集】



【採集したチョウ類の識別】

約1時間調査し、採集したチョウ類を翅(はね)の模様などから判別を行いました。時折小雨も降る中での調査でしたが、3科10種を確認しました(去年は5科9種確認)。

高山西ICのビオトープで見られるチョウ類

平成16年11月の完成以降、平成17～21年と平成26年(整備後10年経過)に生物のモニタリング調査を行っています。調査により、ビオトープでは35種のチョウ類が確認されています。(日本国内では265種、岐阜県内では146種)

●森林性

森林的な環境(広葉樹林、針葉樹林、植林地、河畔林、薪炭林)を好む種。幼虫が樹木の葉を食べて育ち、成虫の活動場所に森林を伴う。

●林縁性

森林の周辺環境(疎な林や森林周辺の草地)を好む種。幼虫が森林周辺に生育する植物を利用する。

●草地性

草原的な環境(火山性荒原、河川の堤防や草地、耕作地)を好む種。幼虫が草の葉を食べて育ち、成虫の主な活動場所が草地である。



【ゴイシジミ】



【オオウラギンスジヒョウモン】



【ツバメシジミ】

確認種を生息環境から整理した結果、森林性の種はゴイシジミ1種、林縁性の種がキチョウなど3種、草地性の種がツバメシジミ、ヒメウラジャノメなど6種でした。ビオトープでは林を整備し、草地の手入れを行っていることから、草地性の種が多く生息しているとともに、林縁部を好む種も生息できる環境であると評価できます。

なお、森林性の種はゴイシジミ1種だけでした。今後、現在よりも森林部を好む種が生息できる環境に変遷していくかどうかが見えらるよう、生息するチョウ類について、これからも同様の調査を行っていきます。